



# 大泉小だより

令和4年11月30日  
練馬区立大泉小学校

## 開校130周年によせて

校長 佐々木 秀之

早いもので、令和4年も残り1か月となりました。新型コロナウイルスは未だに世界中で猛威を振るい、私たちは新しい生活様式を余儀なくされています。人と人とのつながりについてこれほど考えさせられたことはありません。

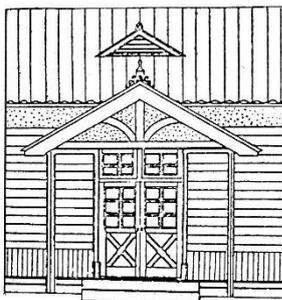
さて、本校は12月10日（土）に開校130周年記念式典を挙げていたします。式典には在校生を代表して6年生が列席します。

本校は、大泉村ができた翌年の明治25年、豊西小学校と樽橋小学校が合併し、現在の地に218名の子どもたちを迎え、泉小学校として開校しました。

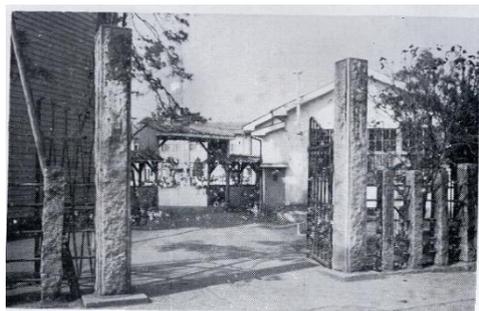
開校130周年記念式典を挙げるにあたり、本校の歴史について記念誌や写真をはじめ、様々な資料をひも解いてみました。130年余りの歴史の中で現存する最も古いものは、正門に立つ御影石の石柱です。あの石柱は移設はしたものの、100年前から立ち続けています。北野神社との境の石垣は沢庵を漬けていた漬物石でできています。昭和30年の児童数は1600名を超え、校舎も建て増しされ、現在の校舎は昭和48年に出来上がりました。

130年余の歴史をひも解き、常に出てきた言葉は「地域」という言葉でした。子供たちが主役である学校の環境を常によりよくしようという保護者、地域の方々の熱い思いに支えられ、歴史と伝統を創り上げてきたことに深く感じ入りました。そして、未来を生きる大泉小の子どもたちへの熱い思いを託されているように感じ、身の引き締まる思いです。

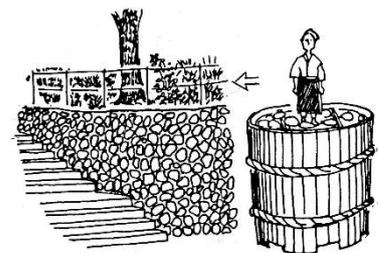
この大泉小の地に通った児童、保護者の皆様、地域の皆様、そして教職員は、見えない一本の糸で必ずつながっています。この130周年を皆様方と共に心からお祝いできることに感謝し、本校の歴史と伝統を味わいながら、未来につなぐ素晴らしい機会にしていきたいと思えます。



泉小学校の玄関



大正元年から立つ正門



石垣の石は漬物石